



－ B 型肝炎から赤ちゃんを守るために － B 型肝炎ワクチンの出産後早期接種について

B 型肝炎とは？

B 型肝炎は、B 型肝炎ウイルス(HBV)の感染により起きる病気です。

HBV に感染すると、急性肝炎（黄だん、倦怠感など）になりそのまま回復する場合もあれば、症状が出ずに HBV が肝臓に潜伏して持続感染(キャリア)し、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなど命にかかわる病気を発症することもあります。

免疫機能が未熟な赤ちゃんが HBV に感染した場合、90%がキャリアになると言われています。

B 型肝炎を予防するには？

赤ちゃんが HBV に感染する原因は、大きく分けて2つあります。

- ① HBV に感染しているお母さんから出産時に感染する【母子感染】
- ② HBV に感染している周囲の人との接触（唾液や汗など）で感染する【水平感染】

HBV の感染を予防する有効な手段としては予防接種(ワクチン)があります。B 型肝炎ワクチンを接種することで、HBV への抵抗力(免疫)ができ、肝炎の発症だけでなく、キャリアになることを予防できます。

妊婦健診で感染していることがわかったら・・・①母子感染の予防

出産後 12 時間以内を目安に、赤ちゃんに感染予防の注射と B 型肝炎ワクチンを接種します。その後、1 回目の接種からの1か月後と6か月後の2回、ワクチンを接種します。これらの接種には健康保険が適用されます。

ご家族にキャリアの方がみえるときには・・・②水平感染の予防

同居のご家族や里帰り先のご家族に HBV のキャリアの方がおり、医師が医学的に早期に B 型肝炎ワクチンの接種が必要であると判断した場合は、担当にお問い合わせください。
出産前の手続きにより、出生後早期から使用できる接種券を発行します。

【担当】岡崎市保健所感染症予防課 予防接種係

電話：0564-23-6714 FAX：0564-23-6621

受付時間：月～金曜日 8時30分～17時15分(祝日を除く)

